

東アジア地域におけるサッカー交流の探求
— ナショナリズム、人種主義、グローバリズムの観点から —

Reflections on Nationalism, Racism, Globalization in East Asian Football Relationship

キムヒョンソン (金賢善) (京都大学高等教育研究開発推進機構 非常勤講師)

【ねらいと目的】

本プロジェクトでは、2010年サッカーワールドカップの北朝鮮と韓国との対戦に関する韓国メディアの動向を考察する。

考察では、朝鮮半島におけるナショナリズムの様相に着目しながら、サッカーに関するメディア・リサーチを行う。この際、着目するのは、朝鮮半島のナショナリズムを特徴づける国家主義と民族主義である。このナショナリズムがメディアにおいていかに出現し、それがメディアという場でいかに消費され、公論に付されるのかを考察する。

【活動の記録】

韓国において研究代表者が2009年12月終わりから1月にかけてメディア・リサーチを行い、日本国内では筑波大学の研究者と意見交流を行った。

【成果の概要】

考察の結果、サッカーを題材にして韓国のナショナリズムが民族主義と国家主義の間を揺れ動く様相を、報道新聞メディアの動向から検討することができた。また、韓国のナショナリズムは民族主義と国家主義の間を揺れ動くと同時に、民族主義と国家主義を共に相対化する視座も存在することが検討できた。考察結果で注目されるのは、ナショナリズムを相対化する視座が新聞報道メディアといった世論形成にあずかるメディアではなく、むしろ商業主義に徹したメディアに存在するということであった。